

## ■ ■ 現場レポート NO. 8 ■ ■

『熟議』で学校を変える！

～上小小中学校事務職員研修会 『熟議』研修【10年後の学校を考えよう】より～

平成24年8月31日

「先生も子どもも多忙で疲れ切っているので、地域の方も借りて笑顔あふれる学校にしたい！」

「地域の方々が気軽に来られるような学校でありたい！」

『熟議』研修のクライマックス、グループ発表で、各事務職員が学校に対する想いを発表していきます。

「これ以上児童生徒数を減少させないためにも、子どもたちが大人になってから故郷に戻ってくるような郷土愛が育まれるような学校でありたい！」

地域の切実な声も入り混じります。

### ■ きっかけ

「教育委員会のホームページで『熟議』開催マニュアルを見て、学校が地域の人とコミュニケーションをとるのにも役立ちそうなので、『熟議』を是非やってみたい！と思ったんですが、なにせ『熟議』のやり方がわからなくて・・・講師として来てもらえないでしょうか。」

ある日、上小小中学校事務研究協議会の研修部長さんから連絡をいただきました。教育現場に『熟議』を広めていきたい我々としても、これはありがたい話。「行かせてもらいます！」ということで、この『熟議』研修が実現しました。

### ■ 『熟議』とは？

堅苦しくいうと、「教育政策の形成や教育現場の課題解決のツールとして活用される話し合いの方法」のことであり、文部科学省もこの『熟議』の普及を推進しています。



まずは、緊張をほぐすための「アイスブレイク」！グループごとに「バースデーリング※」を作りました。（※言葉を使わずに身振り手振りで自分の意志を相手に伝え、誕生日順に並ぶ。）皆さん、羞恥心を乗り越え、見事に体で自分の誕生日を表現していました。

具体的には、

- 多くの当事者（学校、保護者、地域住民等）が集まって、
- 課題について学習・熟慮し、議論をすることにより、
- 互いの立場や果たすべき役割への理解が深まり、
- 解決策が洗練され、
- 個々人が納得して自分の役割を果たすようになる、という話し合いのプロセスのことです。

学校、保護者、地域住民等で『熟議』することで、当事者意識を持ちながらお互いの立場を尊重し、理解を深め合い、学校の抱えている課題について認識を共有し、課題解決を進めていけることができれば理想的です。

## ■当日の『熟議』の様子



テーマに関する課題を黄色い付せんに書き込んでいきます。

そして、ファシリテーターの進行で、1人ずつ書いた課題を読み上げながら、模造紙上に貼っていきます。



類似する課題は、トランプの七並べ風にまとめて貼り、グループを作っていきます。

課題出しが終わったら、今度は課題解決のためのアイデアをピンクの付せんに書き込み、同様に模造紙上に貼っていきます。



2枚目の模造紙に、

- ・「課題」
  - ・「ありたい姿」
  - ・「実現のための方策、アイデア」
- を書き込んでいきます。

皆さん、いつの間にか立ち上がっています！  
会場は標高の高い真田町でしたが、当日はエアコンが必要なほど暑い日でした。『熟議』も熱かった！！



最後にグループ発表！

研修参加者の全員が、「10年後の学校はこうありたい！」と学校に対する想いを発表しました。

「地域と一体となった学校」「快適で安全な学校」「子どもたちが楽しく通える学校」といった意見が多かったですが、中には、「給食費の未納ゼロ（給食費を全額公費負担に！）」「学校設備の修繕が可能な程度の予算確保」など、日頃の事務職員としての苦労がうかがえるような意見もありました。

## ■最後に

ある参加者から「なんだかすっきりした感じがしました。」という感想をいただきました。

普段何となく考えていることを課題として出し合い、みんなで熟慮、議論し、互いの立場や果たすべき役割への理解を深め、解決策を見出し、その後の仕事などに役立てていければこんなに素晴らしいことはないと思います。

この研修に参加された上小小中学校事務職員の皆さんには、地域の方々に学校のことをよく知ってもらい、支援をいただくためにも、学校が抱える課題について、ぜひ一度、保護者や地域の方々と『熟議』してみただけならなと思います。当日は熱く真剣な『熟議』をありがとうございました。

◆「熟議」開催マニュアルなど：<http://www.pref.nagano.lg.jp/kyouiku/kyousoumu/jukugi/jukugi.htm>

(文責 教育総務課 石川直樹)